

●教科書検討の観点からみた内容の特色

※青字の「⇒(P.000)」は教科書のページ数です。

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な関連箇所
① 教育基本法及び学校教育法との関連		
⇒取り扱っている内容は、 教育基本法 に適合しているか。 教育基本法第2条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	民主主義の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などに関する 基礎的・基本的な知識及び技能 を確実に習得し、 社会的事象を多面的・多角的に考察する態度 を養うことで、幅広い知識と教養を身につけることができるようにしている。 ◆ 抽象的な社会のしくみ を確実に理解できるよう、本文が平易な表現になるよう努めるとともに、写真、グラフ、しくみ図などの図版を豊富に掲載している。 ◆ 情報を調べ、まとめる技能 を習得できるよう、特設ページ 情報スキルアップ で情報リテラシー・情報モラルなどを身につけられるよう配慮するとともに、各所で 思考ツール を用いた学習ができるよう工夫している。 ⇒ 情報スキルアップ(P.64-65、92-93)	⇒P.26-33
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	思考力・判断力・表現力等の向上 を図りながら、自己の学習の成果を実感できる構成にしている。また、社会生活ときまりの学習などを通じて、個人の価値を尊重し、 自主及び自律の精神 を養えるように配慮している。さらに、職業を含む将来の生徒の生活についての学習で、 職業及び生活についての関心 を高め、 勤労を重んずる態度 を育てることができるようにしている。 ◆教科書全編にわたり、 社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする問い を豊富に設け、生徒が意欲的に学習に取り組み、 主体的・対話的で深い学び を実現するようにしている。 ⇒ アクティビティ(P.9、27、47、63、87、143、177、213など) ◆生徒にとって身近な事例を使って社会生活ときまりについて学習できるようにしている。 ⇒ 本文ページ(P.24-35など)	⇒P.14-15
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	きまりや見方・考え方の学習や、立憲主義に基づく憲法の学習を通して、個人の尊重に基づいた民主主義と法の支配の基礎を学び、人権の意義と問題を具体的にとらえさせることなどで、 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度 を養えるよう配慮している。また、 公共の精神 に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう配慮している。 ◆教科書全編にわたり、憲法、政治、経済、国際社会の学習のなかで 人権の意義や問題 について考えることができるようにしている。 ◆特設ページ 明日に向かって(P.16-17、56-57、72-73、102-103、110-111、122-123、138-139、160-161、182-183、216-217)	⇒P.22-23
第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	人権・環境・エネルギー、防災・減災 について考えさせることができる記述を随所に配するとともに、地理、歴史的分野のとの連携を重視した編修をこころがけ、生命や自然を大切にすることを育てることができるよう配慮している。 ◆「人権」、「環境・エネルギー」、「防災・減災」などの資料を豊富に紹介している。 ⇒ 本文ページ(P.48-73、102-103、212-215など)	⇒P.28-29
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	現代に受け継がれている日本と世界の多様な文化の学習を通して、 文化の意義や影響 を理解し、多文化共生社会の重要性を認識し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、 国際社会の平和と発展に寄与する態度 を育てられるよう配慮している。 ◆国際社会共通の目標である 持続可能な開発目標(SDGs) について、考えられるよう工夫している。 ◆ 日本の伝統文化の継承と創造の意義 や、世界の中での日本の文化について取り扱っている。 ◆ 我が国の領土をめぐる問題 については、北方領土、竹島、尖閣諸島が 日本固有の領土であること を明記し、問題の現状と、我が国の平和的な解決に向けての取り組みをわかりやすく解説している。 ⇒ 本文ページ(P.194-195、196-197)	⇒P.24-25
⇒取り扱っている内容は、 学校教育法 に適合しているか。	◆ 学校教育法第30条第2項 に示された「 基礎的な知識及び技能の習得 」、「 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等その他の能力の育成 」、「 主体的に学習に取り組む態度の育成 」が重視されている。	⇒P.5

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な関連箇所	
② 学習指導要領との関連			
⇒取り扱っている内容は、 学習指導要領 に示す目標・範囲に適合しているか。	◆学習指導要領に準拠し、 基礎的・基本的な知識及び技能の定着 を図り、 社会的な見方・考え方を働かせながら課題を追究したり解決したりする思考力、判断力、表現力等を高める学習 を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な 公民としての資質・能力の基礎を育成する内容 になっている。	⇒P.14-15	
資質・能力の三つの柱を養うための創意・工夫	⇒ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 を図るために、どのような創意・工夫をしているか。	◆本文は原則1授業時間＝見開き2ページとし、この見開きで何を学ぶのが 学習課題 で明確に示されている。また、右ページの側注欄には 確認コーナー 、 表現コーナー が設けられ、基礎的な知識及び技能の確実な定着をねらいとした学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されており、習得した知識及び技能を用いて文章化・言語化できるようにしている。 ◆ 本文 は、十分な文字量を確保し、平易な表現で、社会のしくみ、事象、考え方についての抽象的な概念や因果関係を丁寧に叙述している。 ◆ 見方・考え方コーナー を設け、学習課題の解決に向けての手がかりとなる主な「見方・考え方」の例を示している。 ◆見開きページの右端に インデックス を設け、学習している単元を常にわかるようにして、全体の中に位置づけて理解しながら、学習を進めることができる。 ◆ 公民+α (コラム)では、学習に関する事項を掘り下げる具体的な内容を取り上げて、理解を深めることができる。 ◆資料を用いた活動を示す 資料活用コーナー を設けており、必要な情報の読み取りなどの技能を高めることができる。 ◆教科書内で関連する事項どうしを結び付ける 参照ページコーナー で、多面的・多角的な見方をすることで、学習内容の定着を図っている。 ◆ 連携コーナー では、地理的分野・歴史的分野の学習とのつながりを意識した問いが示され、生徒の理解を確かなものにするともに、習得した知識を活用できるようにしている。 ◆ 情報スキルアップ によって、 情報リテラシー や、 社会的事象等 について調べ・まとめる技能を身につけることができるようにしている。 ⇒ 情報スキルアップ(P.64-65、92-93)	⇒P.10-11
	⇒ 思考力、判断力、表現力等 を養うために、どのような創意・工夫をしているか。	◆ アクティビティ、チャレンジ公民 では、習得した知識を使い、見方・考え方を働かせながら考察する問いを設けている。また、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり立場や根拠を明確にして議論したりするなど言語活動に関わる学習ができるようにしている。	⇒P.14-15
	⇒ 学びに向かう力、人間性等 を養うために、どのような創意・工夫をしているか。	◆生徒が学習の見通しをもったり学習を振り返ったりすることができるよう、教科書に 単元を貫く問い (「章の問い」、「節の問い」)を構造的に設定している。 ◆各章の導入ページ 学習のはじめに では、活動を通して単元を貫く問いを立てたり、学習を見通したりすることができるよう工夫している。また、何を学ぶかをとらえるための教材として、学習内容と生徒の身近な生活を結び付けた漫画を採用しており、生徒が章の学習に取り組みやすくなるように工夫している。 ⇒ 学習のはじめに(P.6-7、24-25、38-39、82-83、128-129、170-171、188-189) ◆各章末に設定している まとめとふり振り返り ページでは、学習したことをまとめ、振り返る活動を通して単元を貫く問いに答える活動を設定している。 教科書QRコンテンツ「ポートフォリオ」 を設置しており、主体的に学習に取り組む態度の見取りを支援している。 ⇒ まとめとふり振り返り(P.22-23、36-37、80-81、126-127、168-169、186-187、220-221)	⇒P.6-7
	⇒ 見方・考え方を習得・活用 するために、どのような創意・工夫をしているか。	◆本文ページには 見方・考え方コーナー を設け、その見開きでの学習課題の解決に向けての手がかりとなる主な見方・考え方の例を示している。 ◆学習指導要領の中項目にて例示されている見方・考え方について、各編の冒頭の本文ページにて丁寧に説明しており、確実に習得し、その後の学習で活用できるようにしている。	⇒P.14-15
	⇒ 見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学び を実現するために、どのような創意・工夫をしているか。	◆ アクティビティ など、本文ページの学習のなかで見方・考え方をくり返し働かせられるように工夫している。また、本文の内容に基づいた具体的な社会の課題の解決を見方・考え方を活用しながら考察、構想することができる、 チャレンジ公民 を各単元末に設けている。 ⇒ チャレンジ公民(P.34-35、78-79、124-125、184-185、218-219) ◆話し合いなどの対話的な活動が想定される問いには 学び合い マークを付している。	⇒P.14-15

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な関連箇所	
③ 構成・配列			
組織・配列・分量	⇒各編章の学習を行うのに、効果的な組織・配列になっているか。	◆各編章は導入ページ「 学習のはじめに 」で単元を貫く問いを立てたり、学習を見通したりすることができるようにしている。本文ページでの学習を終えた後の まとめとふり返し ページでは、単元を貫く問いに答える活動を行う。この構成を各内容のまとまりで一貫させることで、生徒が学習を効果的に進めることができるようにしている。	⇒ P.6-7、12-13
	⇒構成や分量は適切か。	◆配列は、「 私たちと現代社会 」「 私たちの生活と政治 」「 私たちの生活と経済 」「 私たちと国際社会 」の4編構成で、 社会の課題を自ら考え、主体的に関わろうとする態度を養える工夫 をしている。学習指導要領が示す公民的分野の授業時数100時間で授業が完結できる。	⇒ P.6-7、20-21
内容の選択	⇒現代社会の特色を理解するために、どのような内容が選択され位置づけられているか。	◆第1編第1章「 私たちと現代社会 」は、地理と歴史の学習成果を生かした、公民全体の導入と明確に位置づけている。少子高齢化、情報化、グローバル化という現代日本の特色や、 持続可能な社会 については、教科書を通して重点的に学習し、 日本の伝統・文化 の特徴を多面的に捉えて関心をもたせ、文化が現代社会を規定する大きな要因であることを理解できる。 ⇒ 伝統と文化 (P.18-23、202-203など) ⇒ 持続可能な社会 (巻頭1-巻頭2、14-15、16-17など)	⇒ P.28、28-29
	⇒政治単元では人権を中心に、どのような内容が選択され位置づけられているか。	◆第2編「 私たちの生活と政治 」では、個人の尊重を基礎として、第1編のきまりや合意する方法の学習の延長線上にある 民主主義の理解 に基づき、憲法を学習できる単元構成になっている。 ◆ 立憲主義 に基づいて民主政治が行われていることに着目させ、憲法の目的は人権保障であることを学習できる。基本的人権の尊重を深める学習をはじめ、個人情報保護や環境権など現代社会の人権の課題も取り上げている。 ◆ 三権分立 などの民主政治全体のしくみを理解してから、個別的に学習を深める工夫がなされている。地方自治は、地域の調査や見学などを通じて理解できる工夫をし、国政では、国会のしくみや働き、内閣では国民主権と行政との関係、裁判所では公正な裁判と人権尊重を明確にしている。	⇒P.28
	⇒法に関する内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆社会の変化に対応し、身近な事例から、きまりの意義や契約と責任、法による人権保障、裁判員制度などについての基礎から実践的な内容を取り上げている。	⇒P.23
	⇒経済単元では身近な経済活動と市場経済を中心に、どのような内容が選択され位置づけられているか。	◆第3編「 私たちの生活と経済 」では、 消費の学習 で、具体的事例から家計・流通・価格、市場経済の意義に関心をもって学習できる。 生産の学習 で、株式会社のしくみと企業の競争の意義、景気の問題、労働について、基礎をふまえて実践的な内容を学習できる。 金融の学習 で、金融の意義や日本銀行の役割、為替相場のしくみの基礎を学習できる。 財政の学習 で、財政のしくみを学習した上で、消費者保護、社会保障、公害対策を学び、国民生活に果たす役割を系統的に学習できる。	⇒P.27
	⇒金融に関する内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆金融機関や日本銀行などの基礎的な金融のしくみのほか、株式、外国為替相場、金融商品のリスクとリターンなどの実践的な内容を取り上げている。	
	⇒国際単元では平和と環境を中心に、どのような内容が選択され位置づけられているか。	◆第4編第1章「 私たちと国際社会 」では、 国家主権の相互尊重 によって、国際社会が成立していることを理解させ、国際連合のしくみと働きを学び、 国際協力の大切さ を、 日本国憲法の平和主義の精神 を生かしながら理解できるように配慮している。また、グローバル化が進み、戦争と平和・南北問題や資源・エネルギー、 地球環境問題 など多様な国際社会の問題に対して、 多面的・多角的に 考えさせる工夫をしている。	⇒ P.26、29
	⇒課題探究活動では、持続可能な社会を考えるために、どのような内容が選択され位置づけられているか。	◆第4編第2章「 私たちの課題 」では、義務教育の終了にあたって、中学校社会科三分野の学習の成果を生かしたレポート作成で、 持続可能な社会 の観点から課題を探究でき、 社会参画 する態度を養うための手掛かりとなる内容の工夫をしている。	⇒P.25
	⇒環境・エネルギーにかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆地球規模の環境問題に対する国際社会の取り組みや、日本のエネルギーミックスなどの課題について取り扱っており、生徒が 考察・構想 できるようにしている。 ⇒ 環境・エネルギー (P.175、212-215、218-219など)	⇒P.29
	⇒防災・減災にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆東日本大震災を取り扱い、 自助・共助・公助 の観点から、 持続可能な社会 と関連付けて復興に向けて考えさせるなど、教科書の随所に公民の学習と関連した内容を設定している。 ⇒ 防災・減災 (P.11、102-103、224など)	⇒P.28

教科書検討の観点	内容の特色	本冊子の主な関連箇所		
内容の選択	⇒ 持続可能な社会、持続可能な開発目標(SDGs) にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆SDGsに特に関連の深い教材については SDGsマーク を付記している。 ◆巻頭見返しにて17の目標を示すとともに、関連する内容を第1編から第4編までの学習の随所に登場させており、教科書全体を通してSDGsについて考えられるようにしている。 ⇒ 持続可能な開発目標 (巻頭1-巻頭2、14-15、16-17、191、199、216-217など)	⇒P.24-25	
	⇒我が国の国土と歴史への理解と愛情にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆国歌・国旗については、 国のシンボルとして相互に尊重 することを本文に明記している。 我が国の領土をめぐる問題 については、日本固有の領土である 北方領土、竹島 に関し未解決の問題が残されていること、日本固有の領土である 尖閣諸島 に解決すべき領有権の問題は存在していないことを明記しており、竹島、北方領土、尖閣諸島を取り巻く情勢と、我が国の平和的な解決に向けての取り組みを考えさせることができる。	⇒P.31	
	⇒平和や国際理解にかかわる内容は、どのように選択され位置づけられているか。	◆日本と世界の多様な文化の学習を通して、文化の意義や影響を理解し、多文化共生社会の重要性を認識し、 我が国や郷土を愛する心情を育てるとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育てる内容 となっている。 ⇒ 本文ページ (P.192-193、194-195、196-197)	⇒P.29	
指導計画の作成と内容の取扱いとの関連	⇒ウェルビーイングとかかわる学びについて、どのような配慮がなされているか。	◆生徒が、社会を構成する当事者として、 個人と社会の幸せのために 、多様性と包摂性のある持続可能な社会をめざして、自ら主体的に考え、学びを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養 ができるような教材が設けられている。	⇒P.20-21、22-23、24-25	
	⇒個別最適な学び、協働的な学びについて、どのような配慮がなされているか。	◆ 個別最適な学び については、指導の個別化の実現のため、前述の 教科書QRコンテンツ「確認小テスト」 など、生徒の学習到達度に応じて教師から柔軟に提供できる多様な教材を設けている。また、第4編第2章は生徒自身が課題を発見し、探究活動を進めることを想定しており、 学習の個性化 が実現できる。 ◆ 協働的な学び については、アクティビティなど生徒同士で協働して取り組む課題を随所に設けているほか、明日に向かってやチャレンジ公民では、持続可能な社会の創り手となるべく地域社会の住民など 多様な他者と協働 して社会参画を試みる教材を複数設けている。そのような箇所には 学び合いマーク を付している。	⇒ P.16-17、20-21	
	⇒カリキュラム・マネジメントについて、どのような配慮がなされているか。	◆「法教育」「主権者教育」「消費者教育」「キャリア教育」など社会とのつながりや、道徳科との関連について関心・意欲を持って学習できるように工夫されている。 ◆学校ごとの生徒の姿や地域の実情に合わせ選択・活用できるように各種の教材が設けられている。	⇒P.22-23、36-37	
	⇒ICTを活用して学習を効果的に進められるように工夫しているか。	◆教科書紙面に 二次元コード を掲載し、発行者webサイト上で公開している動画や資料、ワークシート等のデジタルコンテンツである 教科書QRコンテンツ に生徒が主体的にアクセスできるようにしている。 ◆教科書QRコンテンツのある箇所には、 タブレットマーク を配置しその内容を示している。	⇒ P.16-17、18-19	
	⇒デジタル教科書・教材の発行予定はあるか。	◆教科書に完全に準拠し、拡大・リフロー、音声読み上げ、色の反転・配色設定、総ルビ表示といった特別支援機能を持つ 学習者用デジタル教科書 や、動画・アニメーション表示などの豊富なコンテンツを収録し、電子黒板や1人1端末などで操作することができる 指導者用/学習者用デジタル教材 の発行が予定されている。	⇒P.44-45	
	⇒情報活用能力の育成についてどのような配慮がなされているか。	◆社会科におけるICT機器を利用した学習を促進し、情報活用能力を育成できるようデジタルコンテンツを提供している。 ◆ アクティビティ など、生徒がグループ活動等を通して主体的に問題解決・探究学習を行うための教材を随所に設けている。また、そのような学習に際して、情報を整理・比較などするための 思考ツール を巻末「 思考ツールを使ってみよう 」にて豊富に紹介している。	⇒P.32	
	⇒生徒の家庭学習に対して、どのような配慮がなされているか。	◆すべての節に 教科書QRコンテンツ「イントロダクションムービー」 が用意されている。節の学習の見通しをもつにあたって役立つ教科書完全準拠の動画コンテンツで、家庭での予習にも利用できるように工夫している。 ◆基礎的・基本的な知識に関する一問一答の問題である 教科書QRコンテンツ「確認小テスト」 を用意している。答え合わせや誤答した問題の振り返りを生徒自身で行え、家庭での予習・復習にも利用できるように工夫している。 ◆「 巻末法令集 」の日本国憲法には、難しい用語に解説を付している。また、「 用語解説 」や「 類似用語集 」を設けて、難しい用語や類似用語のちがいを解説している。 ⇒ 用語解説 (P.258-259) ⇒ 類似用語集 (P.260-261)	⇒ P.16-17、P.33	
	他分野との接続	⇒小学校社会科との連携や、生徒の発達の段階に対して、どのような配慮がなされているか。	◆導入ページ「 学習のはじめに 」では、 小学校社会科 における公民的分野に関わる学習内容を再確認できる構成にしている。 ⇒ 小学校で学習した内容 (P.7、25、39、83、129、171、189) ◆生徒が思考力、判断力、表現力等を養う学習では、空欄への記入や自由記述などの解答方式や、考えるための技能について、 発達の段階を考慮した配列 となっている。	⇒P.36-37

教科書検討の観点		内容の特色	本冊子の主な関連箇所
他校種・他教科・他分野との接続	⇒地理的分野や歴史的分野との連携について、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆巻頭に地理・歴史とのつながりを設け、地理的分野・歴史的分野で学習した内容をふり返し、公民的分野での学習内容について興味・関心を喚起させるようになっている。また、巻末に世界地図と現代史年表を掲載し、地理と歴史の知識を公民の学習に参照できる工夫をしている。 ◆本文ページ脚注の連携コーナーにおいて、生徒が地理と歴史の既習事項をふり返し、活用することができる。 ⇒地理・歴史とのつながり(巻頭3) ⇒連携コーナー(地理・歴史)(P.19、59、89、119、153、193など) 	⇒P.36-37
	⇒高等学校公民科との接続について、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆巻末に高校の公民科「公共」とのつながりを設け、高等学校公民科ではどのような学習を行っているのかの見通しを持つことができるよう工夫している。 ⇒高校の公民科「公共」とのつながり(巻末1) 	⇒P.37
	⇒他教科との関連について、どのような配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆巻末に公民と他教科とのつながりを設け、公民的分野の学習内容と他教科との関連を示唆し、教材を多面的・多角的なとらえ方ができるよう工夫している。 ⇒公民と他教科とのつながり(巻末3) 	⇒P.37
	⇒道徳教育との関連から、取り扱う内容はどのようなになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆教科書全体が個人の尊重の考え方を基本理念として構成されており、取り上げられている教材は、人権尊重・男女共同参画などの観点から適切に選択されている。 ◆ルール学習に基礎を置き、広い視野から考え、身近なところから課題を見だし、国民主権、ボランティア・NPOの学習、レポート作成の学習を通じて社会参画への関心や意欲を養い、持続可能な社会の形成に参画する態度を養えるようにしている。 	⇒P.37
④ 正確性及び表記・表現			
⇒文章および図版等の表現は正確か。	<ul style="list-style-type: none"> ◆本文や写真・グラフ・しくみ図・イラスト等の図版類すべてにわたり、内容はもとより用語の一つ一つにも細心の注意を払うとともに、きわめて正確かつ最新の資料を選択している。 	⇒P.10-11	
⇒カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応や、表記・表現について、どのような工夫や配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆特別支援教育・カラーユニバーサルデザインの専門家の校閲を受け、すべての生徒が等しく情報を読み取ることができるように、配慮が行きわたっている。 ◆本文は、原則1授業時間＝見開き2ページとなっており、紙面は学習内容を理解しやすいように、授業や生徒の思考の流れに即したレイアウトで構成されている。 ◆見開きページの右端には、インデックスを設けて、生徒が学習している単元を常に確認できる工夫がなされている。 ◆文字は、視認性の高さで実績のあるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を使用している。 ◆本文は平易な文章で、抽象的・網羅的な記述を避けて、具体的に記述している。 ◆漢字の使用は、細心の注意を払い、小学校で未習の漢字や、固有名詞などは見開き2ページの初出にふりがなを付し、読みまちがいのおそれがあるものや人名等については教育漢字であっても極力ふりがなを付して、読み取りやすくしている。 ◆ふりがなは、大きめのゴシック体を使っており、視認性を高める配慮をしている。 ◆重要語句は太字にして、全てふりがなが付されている。ていねいな解説をした側注も充実し、振り返りと広がり意識した参照ページが随所に付され、内容理解の促進が図られている。 ◆図版には番号を付すとともに、本文にも関連する図版番号を添えており、本文と図版を関連して読み取らせるようにしている。 ◆第1～4編の編ごとに単元の色を統一して示すことで、現在、学習している単元がつかねにわかるようになっている。 ◆地図・グラフ等の図版類は、カラーバリアフリーに配慮した配色にするほか、形や模様、線の種類など、色以外の情報でも識別できるように配慮している。 ◆本文が22、26ポイントの2種類の拡大教科書の発行が予定されている。 	⇒P.34-35	
⑤ 造本			
⇒大きさ・判型について	<ul style="list-style-type: none"> ◆見開きページの情報量を充実させるため、ワイドなAB判が採用されている。 	⇒P.8-9	
⇒印刷の鮮明さについて	<ul style="list-style-type: none"> ◆文字や写真、イラストなどの印刷は鮮明で、読み取りやすく、生徒の興味・関心を高めることができる。 	⇒P.10-11	
⇒耐久性や人や環境への配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、針金綴じよりも大きく開き、かつ閉じにくい本になっている。また、良質で軽い紙を使用して重量をおさえるとともに、十分な強度で裏写りが少なくなるよう配慮され、表面も汚れを防ぐよう加工している。 ◆印刷は、植物油インキを使用している。また、製本には化学物質過敏症の原因物質は可能な限り使用せず、再生紙を使用して人体や環境への影響を少なくしている。 	⇒P.34	
⇒装丁にはどのような工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ◆表紙の装丁は、現代社会、憲法、政治、経済、国際社会といった公民的分野の学習内容を想起させる写真を配置している。また、情報科、化学・技術、社会参画、多様性、グローバル化、持続可能な社会をイメージしてデザインしている。 	表紙、 ⇒P.34	